

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間:平成28年4月～令和3年3月(5年)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

平成28年4月以降、第2期基本計画に基づき、『まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち』『「人・もの・情報」が集まり、誰もが快適に暮らせるまち』『生活の質を高め、「しごと」の場がある活力あるまち』といった3つの目標を設定し、第1期計画で創出した駅周辺・城周辺・広小路周辺の3つの集客・交流拠点を中心として、計画に掲げる46事業の推進に取り組んできた。

駅周辺では、駅正面リニューアル事業を特定会社である福知山フロント株式会社が牽引し、5年間で空き物件を活用して12店舗の新規開業を生み出した。同時に、地元において「街づくり協定」を締結し、統一感ある街並みの形成を進めている。こうした取組みの積み重ねにより、エリアの魅力や価値が向上したことで、長らく駐車場利用されていた土地でのマンション建設や、新規開業等の民間投資が進んでいる。

福知山城周辺においては、明智光秀を主人公としたNHK大河ドラマの放送により全国から注目が集まることを好機として、ネットイベント等のさまざまな取組みを官民協働で実施したことにより、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受けながらも、周辺施設への人出は過去最多を記録した。その一方で、第1期計画期間に福知山城に隣接する土地に整備した「ゆらのガーデン」(芝生の広場に7軒のショップが outlet)の来場者数は例年並みにとどまっており、施設来館者を商業エリアへ十分に誘引できていない状況である。

広小路周辺では、第1期計画から取り組んできた広小路通りの電線類地中化・美装化工事が完了するとともに、下柳町での歴史的建造物をリノベーションした飲食・宿泊・土産物販売施設の開業や、新町通りでの定期マーケットの開催、福知山公立大学のまちかどキャンパスやシェアハウスの誕生といった、多様な主体による様々な取組が行われたことで、賑わいや新たな人の流れが確実に生まれている。

今後、計画の推進により具現化された官民協働によるまちづくりを継続・発展させ、中心市街地への集客や回遊性をより一層向上させるため、まちづくりに意欲的な民間事業者などを主体としたエリアマネジメントの実現に向けた体制の構築を官民が一体となって推進していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日:毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度(4 年目)	令和2年度(最 終年度)
人口	5,502	5,434	5,379	5,267	5,232	5,192
人口増減数	△67	△68	△55	△112	△35	△40
自然増減数	△38	△43	△55	△68	△48	△55
社会増減数	△29	△25	0	△44	13	15
転入者数	128	153	161	163	236	313

(2)地価

(基準日:毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度(4 年目)	令和2年度(最 終年度)
中心市街地 商業地域平均	83,000	82,367	81,833	80,933	80,033	78,967
福知山 5-1	113,000	112,000	111,000	109,000	107,000	105,000
福知山 5-2	66,100	65,900	65,700	65,400	65,400	64,900
福知山 5-5	69,900	69,200	68,800	68,400	67,700	67,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

基本計画掲載事業 46 事業の内、44 事業に着手し、8 事業が完了、36 事業が実施中、2 事業が未着手であり、概ね予定通り進捗したといえる。

一方で、中心市街地の人口については、自然減が加速し、減少傾向(中心市街地の人口 /5,502 人<平成 28 年度>⇒5,192 人<令和 2 年度>:対 28 年度比 5.6%減少)が続いているなど、中心市街地を取り巻く商業環境は依然厳しい状況が続いている。

また、人口の減少は商業振興のみならず、空き家・空き店舗等の増加や解体等に繋がり、中心市街地に残る本市の特徴的な歴史的景観や文化的資源の保存・継承へ影響し、それらを活用した観光振興等へも影響するなど、複合的かつ連続的に政策課題を深刻化させている。

ただし、このような状況ではあるが中心市街地活性化基本計画における取組を有志民間・市民団体等と共に着実に実施することで、負の影響を最小限に抑えることができたと考える。

例えば、「駅正面通りリニューアル事業」では、駅正面通り商店街の若手有志を中心にまちづくり会社・福知山フロント株式会社を設立し、商店街のコンセプトからリニューアルし、遊休不動産のリノベーション及びサブリースによる若者の新規開業を促進する取組を集中的に進めた結果、空き店舗を活用した新規出店数が 12 件に達した。また、それに伴い駅正面通り商店街の通行量も増加(駅正面通り商店街の通行量/682 人<平成 28 年度>⇒894 人<令和元年度>:対 28 年度比 31%増加 ※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため減少)している。

また、少子高齢化による自然減の影響が大きく、居住人口は減少しているものの、福知山公立大学サテライトキャンパスの開設(平成 29 年度)や、上述の駅正面リニューアル事業がきっかけとなり駅正面通り商店街内の駐車場でのマンション建設(令和 2 年度)などにより令和元年

度以降社会増となっている。

こうした状況から、人口減少及びそれに伴う多様な政策課題はあるものの、その影響は最小限に抑えられており、遊休不動産を活用した新規開業等の民間投資の活発化(新規開業数/10店舗<1期計画>⇒30店舗<2期計画>:対前期比 200%増)や、人通りが少なくなった商店街等の遊休公共空間を活用した定期マーケットの開催など市民有志団体による取組の活発化により活気が戻ってきたため、中心市街地は「若干活性化した」と考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

中心市街地活性化基本計画の制定後、第1期においては、ゆらのガーデンの整備・空き店舗を活用したテナントミックス事業・広小路通りアーケード撤去及び電線地中化等のハード整備を中心に展開してきた。第2期では、第1期で整備された集客拠点等を繋ぎ、回遊性を高めるため、民間事業者等と連携したソフト事業の展開を進めてきた。現在、商店街・若手経営者・学生・新規起業家様々な主体による、中心市街地の魅力向上と交流人口を増やすまちづくりが着実に進む等、その機運の高まりは中活計画の成果によるものと評価できる。

国の中心市街地活性化政策は、かつてのハード面の支援から地域の持続的発展を目的とした地域コミュニティ機能の維持や地域人材の育成等ソフト面の支援へとシフトする等政策の転換期を迎えている。また、かつてのような、計画認定を受けた団体のみが活用できる補助事業もなくなったため、計画策定の大きなメリットがないことから、協議会として第3期計画は策定しない方針でまとまった。

ただし、今後も中心市街地活性化の歩みを止めることなく、テナントミックス事業の推進、民間主導の官民連携によるまちづくり、令和3年度策定予定の「立地適正化計画」における中活計画の成果を活かしたまちづくり等を進め、事業成果の持続的発展に繋げていってほしいとの意見があった。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

福知山市総合計画アンケート

調査時期: 令和2年1月

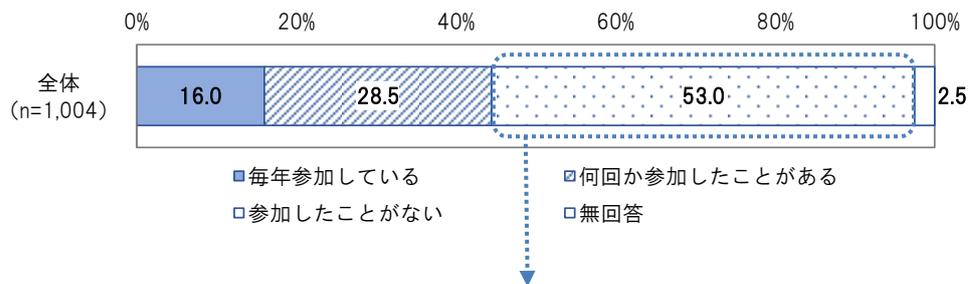
調査方法: 福知山市在住(市内に住み票がある人)の18歳以上の男女 3,000人

調査方法: 無作為抽出による郵送配布・郵送回収

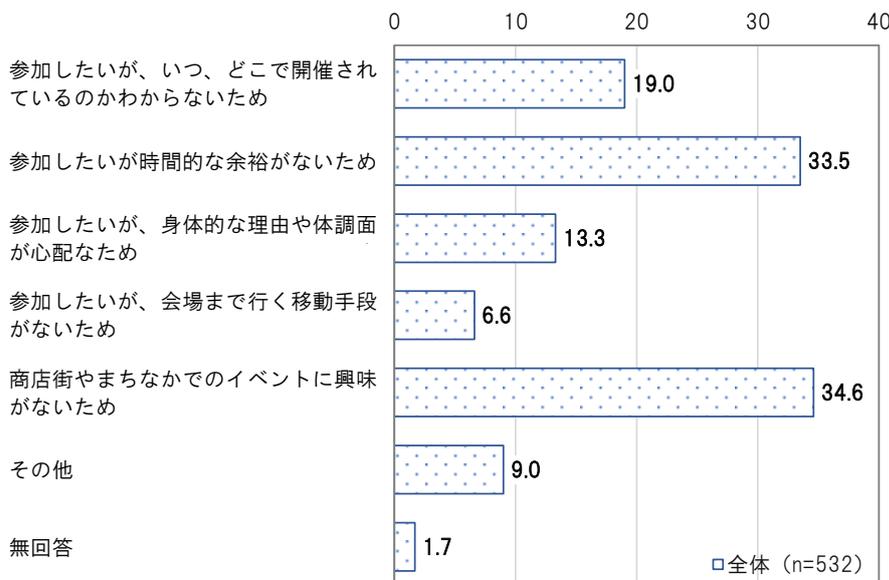
有効サンプル数: 1,004人(回収率 33.6%)

アンケートの結果、『中心市街地商店街やまちなかで行われているイベントへの参加状況』について、「参加したことがない」が53%と過半数を占めたが、そのうちの72.4%が、参加したいが「時間的な余裕がない」「日時がわからない」などの理由による未参加であり、「参加したことがある人」と併せると8割以上の人が中心市街地でのイベントに興味や参加意向を示しており、中心市街地に魅力を感じていることが伺える。

〈「中心市街地商店街やまちなかで行われているイベントの参加状況」〉



〈「中心市街地商店街やまちなかで行われているイベントへの参加したことがない理由」〉



6. 今後の取組

本計画の取組による賑わい創出の効果を中心市街地全体、市全体へ波及させることが重要である。

また、市民アンケートの結果からも、中心市街地商店街やまちなかで行われているイベントに半数近い割合で参加されることがないことが分かっている。まだまだ活性化のポテンシャルがあると捉え、より一層の取組に努めたい。

今後も、本計画の取組により生まれた先導的事業を更に継続・発展させ、官民一体となって「歴史と文化が育んだ豊かな暮らしと賑わい交流のまちづくり」を推進していく。

具体的には、それぞれの商店街・界隈で活発化している遊休不動産・遊休公共空間を活用した事業を民間主導の官民連携により推進するため、立地適正化計画の策定による都市再生推進法人認定等を受けられる環境整備など、志のある民間・市民が主導的に活躍していただける環境整備に取り組む。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち	歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)	3,871人/日 (H27)	4,200人/日 (R2)	3,976人/日	R2.9	B2
「人・もの・情報」が集まり、誰もが快適に暮らせるまち	歴史文化・交流施設利用者数	356,104人/年 (H26)	390,000人/年 (R2)	392,827人/年	R3.3	A
生活の質を高め、「しごと」の場がある活力あるまち	新規店舗開業数	10店舗 (H23-H27)	20店舗 (H28-R2)	30店舗	R3.3	A

<達成状況の分類>

A: 目標達成、B1: 概ね目標達成(基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている)、B2: 基準値より改善(基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない)、C: 基準値に及ばない

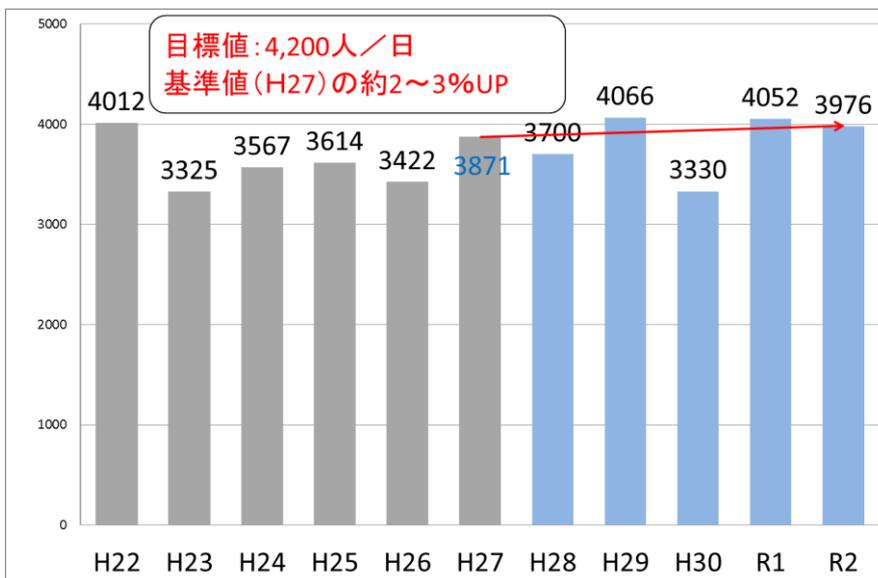
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。(注: 小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「歩行者・自転車通行量(休日)」(目標の達成状況【B2】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P83～P87 参照

●調査結果と分析



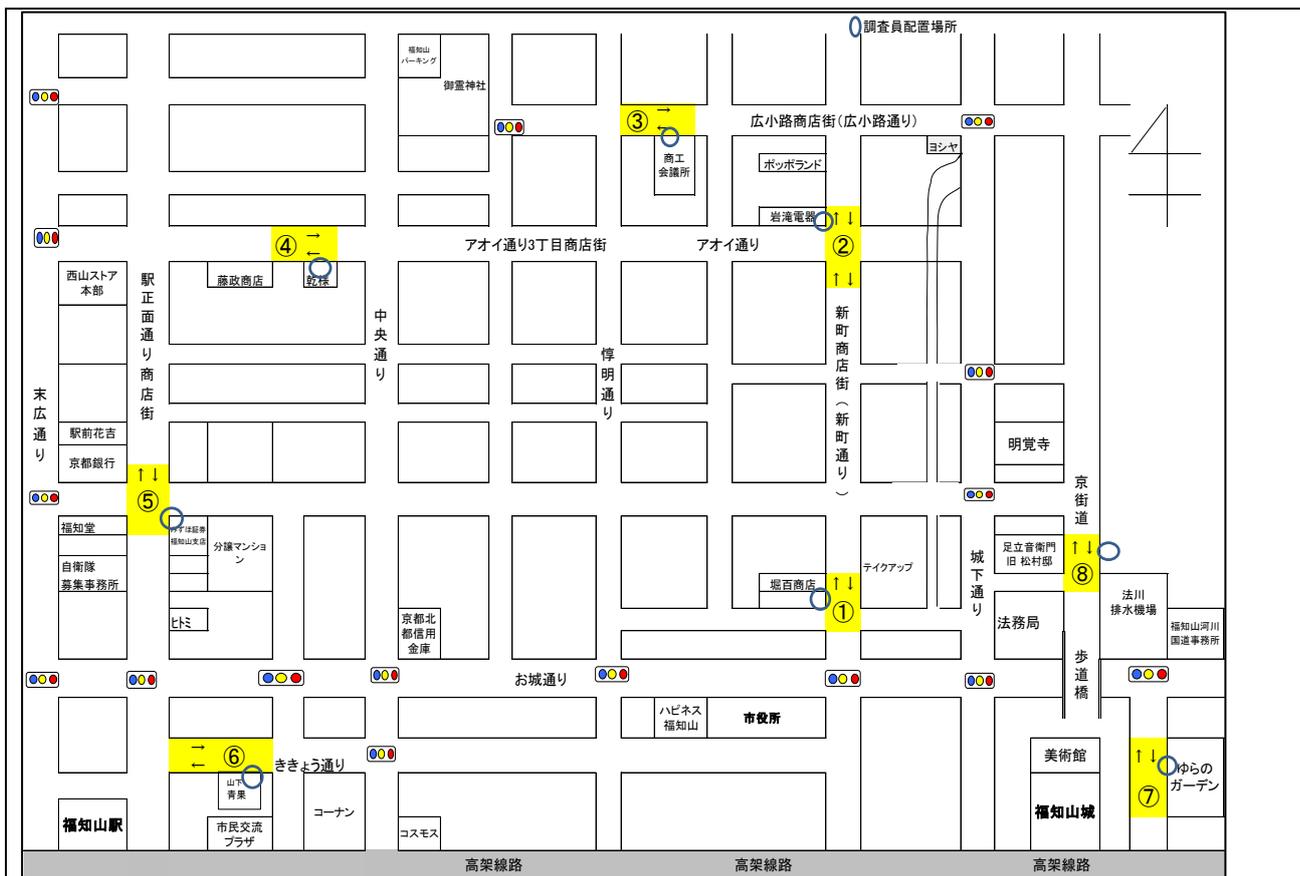
年	(単位:人)
H27	3,871 (基準年値)
H28	3,700
H29	4,066
H30	3,330
R元	4,052
R2	3,976
R2	4,200 (目標値)

※調査方法: 歩行者・自転車通行量調査(中心市街地7地点で実施)

※調査月: 令和2年9月実施(平日と休日の2回)

※調査主体: 福知山市

※調査対象: 歩行者・自転車通行者



(単位:人)

	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)
新町商店街	326	795	331	264	312	327
広小路商店街	834	593	754	579	533	776
アオイ通り3丁目	238	211	251	235	164	178
駅正面通り商店街	685	682	1,059	864	894	357
駅周辺 (駅前商店街)	630	472	475	443	563	564
城周辺 (ゆらのガーデン前)	822	667	951	709	1,298	1,476
京街道 (旧松村郵裏)	336	280	245	236	288	299
合計	3,871	3,700	4,066	3,330	4,052	3,976

〈分析内容〉

平成30年度は記録的猛暑による外出控え及び台風 21 号上陸前日の調査となったこと、また、新型コロナウイルス感染症拡大が始まった令和 2 年度は外出自粛要請等によりそれぞれ前年度比で減少している。

しかしながら、先述の駅正面リニューアル事業により新規開業を誘致した駅正面通り商店街では令和元年度に 894 人(対 28 年度比:31.0%増)であり、また電線類地中化工事及び「街づくり協定」に基づく外観修景に取り組んだ広小路通りでは、大河ドラマ放送も相まって、新型コロナウイルス感染拡大の状況下にあった令和 2 年度においても 776 人(対 28 年度比:30.8%増)であり、期待された効果が発現している。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 大規模歴史建築活用事業（民間）

事業実施期間	平成 28 年度から令和元年度【済】
事業概要	中心市街地内の大規模歴史建築を活用し、福知山の風土を五感で味わうことができる宿泊・飲食施設にリノベーションする
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（経済産業省）（令和元年度） [認定基本計画：地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度）]
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値 - 歴史的建造物を活用し、飲食、宿泊、土産物販売施設の整備が完了した。
達成した（出来なかった）理由	歴史景観の継承及び地域文化資源を活用したまちづくりの視点から事業の有用性を訴求したことで経済産業省の補助金の採択を受けることができたことが達成の大きな要因であったと考える。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、営業時間短縮等がされているが、ランチ及びテイクアウトの需要もあり、令和 2 年度の下柳町界隈の通行量は前年比 4.7 倍となっている。
事業の今後について	飲食、宿泊、土産物販売施設を有する新たな集客拠点として、また、歴史ある建物とまちなみ景観を活かしたエリアとして、魅力や価値の向上に繋げ、面的な集客を図る。

②. 駅正面リニューアル事業（福知山市、駅正面通り商店街振興組合、福知山フロント株）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山駅正面に位置する駅正面通り商店街をまちづくりのコンセプトを策定し、空き家を活用してテナントミックス事業を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成 30 年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度から平成 30 年度） [認定基本計画：地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度から令和 2 年度）]
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値(駅正面通り商店街 通行量) 164 人増/日 ・最新値 212 人増/日(R1. 9) ※325 人減/日(R2. 9)新型コロナウイルス感染症の影響による

達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の予定以上の進捗を見せ、商店街若手有志を中心としたまちづくり会社・福知山フロント株式会社が主導的に遊休不動産への民間投資を促進することで、5年間で12件の新規開業を実現しており、令和元年度の通行量は目標値を上回る894人/日であった。 ところが最終年度である令和2年度においては新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛等に伴い、最新値での通行量は目標未達成となっている。
計画終了後の状況及び事業効果	5年間で12件の新規開業を創出され、また115戸のマンション(市内最大)の民間投資による建設誘致を実現するなど顕著な成果を挙げており、通行量が増加したのは本事業の効果と考えられる。
事業の今後について	引き続き、空き店舗活用に取り組みとともに、街なみ環境整備事業によるファサード整備に取り組み、駅正面エリアの魅力的な景観を形成し、集客、賑わいの創出を図る。

③. 福知山城周辺都市施設整備構想（福知山市、民間）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【未】
事業概要	福知山城周辺賑わい創出施設（ゆらのガーデン）に続く第2弾プロジェクト。丹波生活衣館の再編と併せて、福知山城周辺に5店舗の文化・商業施設を誘致する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値(城周辺 通行量) 205人増/日 ・最新値 - (未着手)
達成した（出来なかった）理由	活用を予定していた丹波生活衣館が、令和3年1月までは大河ドラマ放送により佐藤太清美術館を光秀ミュージアムとして活用していることから、美術館の代替展示場として活用している。その後についても、市全体の文化振興の将来像や方向性を定めた「文化振興基本方針」に基づき、有効に活用していくこととしており、新たな文化・商業施設の誘致を行うことができなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	(未着手)
事業の今後について	文化振興基本方針を指針として、大河ドラマ放送終了後の丹波生活衣館の更なる利活用について検討を進める。

④. 町家活用ゲストハウス施設整備事業（福知山フロント株式会社）

事業実施期間	平成28年度【済】
事業概要	中心市街地にある旅館を活用し、ゲストハウスとして改修し交流人口を増やす。
国の支援措置名及び支援期間	商店街・まちなかインバウンド促進支援事業（中心市街地活性化事業）（経済産業省）（平成28年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値(駅正面通り商店街 通行量) 24人増/日 ・最新値 325人減/日(R2.9) ※212人増/日(R1.9)
達成した（出来なかった）理由	平成29年3月に整備が完了して以降、高い稼働率(令和元年度稼働率8割)で商店街への誘客を促し、宿泊に伴う周辺店舗等での

	食事や買い物による回遊を創出したことが要因であると考える。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間初年度に本事業によりゲストハウスが開業し、顕著な実績を残すことで、他の空き店舗等への民間投資を促し、結果として5年間で12件の新規開業が商店街内で創出された。
事業の今後について	今後も福知山フロント株式会社が主導的に行うテナントミックス事業等と連携し、遊休不動産を活用したエリア再生に継続して取り組む。

⑤. まち歩き観光促進事業（福知山市、福知山まちづくり株）

事業実施期間	平成27年度から令和2年度【実施中】
事業概要	福知山パークングの30分無料化等により中心市街地の利用頻度とまち歩き観光を促進する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成28年度～平成29年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成28年度～令和2年度）]
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値（広小路商店街 通行量） 24人増/日 ・最新値 183人増/日（R2.9）
達成した（出来なかった）理由	中心市街地内の店舗等（38店舗加盟 R3.4）の利用で、福知山パークングの30分無料チケットを発行する事業を実施したことが、通行量の増加に効果を発揮したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、周辺店舗では営業時間短縮等を余儀なくされているが、広小路商店街の通行量は593人（H28.9）から776人（R2.9）と30.8%増加している。
事業の今後について	本計画期間において広小路通り電線類地中化・道路美装化工事が完了し、また先述の大規模歴史建築活用事業実施により、新たな人の流れも今後期待でき、更なる民間投資による誘客スポットとなるコンテンツ創出を促進し、まちなか観光・回遊に繋げていきたい。

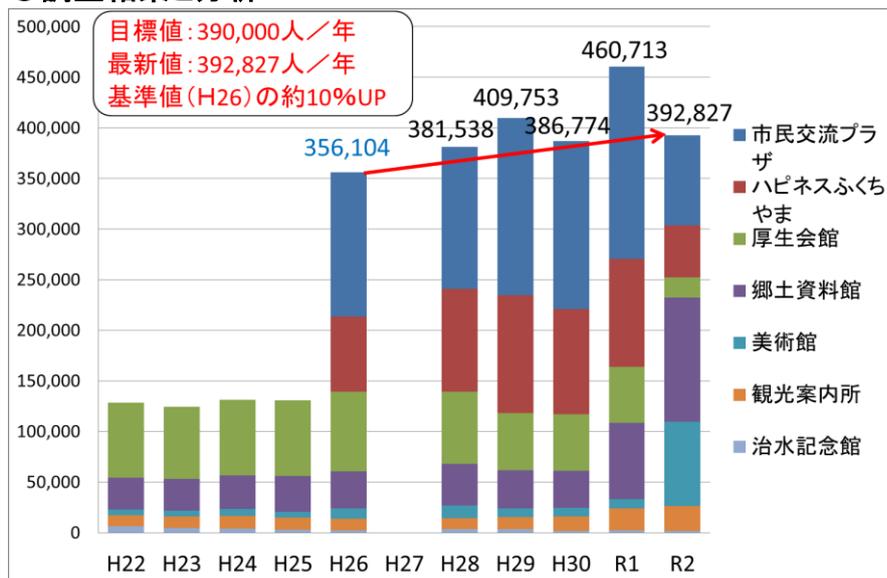
●今後の対策

駅周辺、城周辺、広小路周辺の3つを誘致拠点に回遊性を高めるため、空き家・空き店舗等の遊休不動産への民間投資、また、商店街や公園等の遊休公共空間での定期マーケット等のイベント実施など、多彩なコンテンツの創出を促進する。

(2)「歴史文化・交流施設利用者数」(目標の達成状況【B1】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P88～P91 参照

●調査結果と分析



年	(単位: 人)
H26	356,104 (基準年値)
H28	381,538
H29	409,753
H30	386,774
R元	460,713
R2	392,827
R2	390,000 (目標値)

※調査方法：歴史文化・交流施設の利用者数調査

※調査月：令和3年2月実施

※調査主体：福知山市

※調査対象：歴史文化・交流施設の利用者数

〈分析内容〉

歴史文化・交流施設の利用者数は、毎年基準値を上回り、令和元年度時点で目標値を超えている。令和元年度は、明智光秀を主人公とする大河ドラマ放送が決定したことによる福知山城等の観光客が増えたことが背景にある。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による施設の休館もあり、大河ドラマの効果による大幅な利用者数増とはならなかったが、目標は達成した。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 厚生会館改修事業(福知山市)

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【未】
事業概要	本市の文化振興の拠点である厚生会館について、社会環境に即した改修を行なうとともに、機能改善を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値(厚生会館利用者数) 3,941人増/年 ・最新値 - (未着手)
達成した(出来なかった)理由	工事費(設計金額)の増大、それに伴う財源確保に課題があり事業実施に至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	事業実施には至らなかったが、施設の目指す将来像や基本目標、取組の方向性を定めた基本方針を指針として、厚生会館の改修・機能改善について検討を進めている。

事業の今後について	平成31年3月に策定した「文化振興基本方針」において、厚生会館の整備については「老朽化している他の施設との効果的な機能集約も図るなかで、文化活動の核となる文化ホールについて、新たな建設も含め検討する」との方向性を示している。事業完了時には3,491人の利用者数の増加を見込んでいる。
②. 市民交流プラザふくちやま活用事業(福知山市)	
事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	市民交流プラザふくちやままでの講座開設者を充実するための広報活動等を実施し、市民に社会参加の機会や新たな価値との出会いの場を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目標値(生涯学習センターの利用者数) 14,600人増/年 ・ 最新値 49,588人増/年(R1) ※51,258人減/日(R2)新型コロナウイルス感染症の影響
達成した(出来なかった)理由	市民団体等による講座や企業の会合・研修等の利用を募ることで、令和元年度には目標値を大きく上回った。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用を制限している状況が続いている。
事業の今後について	プラザは生涯学習センターとして市民や利用者にとってなくてはならない施設として認知されており、今後も生涯学習、新しい講座の開設や研修会、コミュニティ活動の場として一層の利活用が図られるよう、広報活動の充実を図り、利用者を募る。
③. ハピネスふくちやま活用事業(福知山市)	
事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	ハピネスふくちやままでの子育て世代の教室及び健康推進事業、障害者生活支援事業、男女共同参画推進事業等を実施。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目標値(施設利用者数) 6,000人増/月 ・ 最新値 8,076人増/年(R1) ※43,796人減/日(R2)新型コロナウイルス感染症の影響
達成した(出来なかった)理由	平成30年度から、ハピネス1階に子育てに関する施策や窓口を一元化した「子ども政策室」を設置し、利便性の向上と子育て家庭の課題に寄り添った支援を行ったほか、男女共同参画センターにおいても、あらゆる人権問題の解決や男女共同参画社会の推進に向けた講座や研修等を行ったことが目標達成に寄与したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	子育て世代に寄り添ったワンストップ窓口としての役割を果たすとともに、人権問題の解決や男女共同参画の推進に向けた講座や研修等が行われている。
事業の今後について	各種相談窓口や健康教室、人権講座等を開催し、一層の利活用を図る。

④. 佐藤太清記念美術館特別展事業(福知山市)

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山市佐藤太清記念美術館で特別展を開催し、福知山市民としてのアイデンティティ増幅に寄与する
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 29 年度から平成 30 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目標値(施設来館者数) 2,000 人増/年 ・ 最新値 3,058 人減/年(R1) ※R2 は当該施設を大河ドラマ館として使用。
達成した(出来なかった)理由	令和元年度は 3 回の特別展・企画展を開催し、入館者は昨年度より約 7%増加したものの、基準値 10,644 人には届いておらず、2,000 人の入館者増加の目標は達成できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休館している状況が続いているが、大河ドラマ放送を契機に令和元年度は周辺歴史・文化施設の来館者は増加している。
事業の今後について	大河ドラマ放送による周辺施設への観光客増加を契機に、新たな顧客獲得に向けて、更なる情報発信や魅力ある企画展の開催に努め、利用者数の増加を目指す。

⑤. 駅北口公園賑わい事業(福知山市、民間)

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山駅北口公園を活用し、賑わいあるイベント等を活用のマネジメントを行う
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目標値(駅北口公園イベント利用者数) 3,600 人増/年 ・ 最新値 10,110 人増/年(R1) ※6,515 人減/年(R2) 新型コロナウイルス感染症の影響
達成した(出来なかった)理由	令和元年度には年間 12 回のイベント利用があり、16,930 人を集客し、目標値を大きく上回った。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催中止となるイベントが多いが、本計画期間で多様な主体による利用が増え、駅北口公園の認知も図れたことからポストコロナでの効果の発現を期待できる。
事業の今後について	様々な主体によるイベントが継続的に実施され、まちなかへの誘客拠点・回遊の起点となるよう、引き続き駅北口公園の認知工場と活用促進を図っていく。

⑥. 福知山城観光駐車場拡張事業(福知山市、城周辺賑わい創出プロジェクト会議)

事業実施期間	平成 28 年から平成 29 年度【済】
事業概要	福知山城周辺施設の利用促進のため、長年の課題である駐車場不足を解消するため、観光駐車場を拡張する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目標値(郷土資料館利用者数) 3,628 人増/年 ・ 最新値 81,308 人増/年(R2)
達成した(出来なかった)理由	新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け休館期間もあった中ではあるが、大河ドラマ放送を契機とした官民一体となったプロモーション及びイベント等の開催により目標値を大きく上回った。
計画終了後の状況及び事業効果	平成30年3月に、福知山公園観光駐車場に隣接する「京口荘」を解体・撤去し、新たに10台の駐車スペースを確保することができ、駐車台数が15%の増加となった。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況下ではあったものの、大河ドラマ放送の効果もあり、郷土資料館(福知山城天守閣)の入館者数は122,601人と基準値の36,289人から3倍以上に増加しており、周辺駐車場や未利用地等の活用と併せて、ようやく駐車台数を確保した状況であった。
事業の今後について	ポストコロナにおいて、入館者数は更に増加することが見込まれるため、引き続き駐車環境を整え、入館者の増加に繋げる。

⑦. 観光情報発信力強化事業(福知山市、商店街)

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	城下町福知山の観光情報を広域に発信し、利用者増につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目標値(ゆらのガーデン利用者数) 1,000 人増/年 ・ 最新値 30,439 人/増(R1) ※6,667 人減/年(R2) 新型コロナウイルス感染症の影響
達成した(出来なかった)理由	市民有志団体によりナチュラルガーデンをコンセプトとした四季折々の草花が丁寧に植栽されており、また幾度の災害にも負けずに出店いただいている店舗の不断の努力により利用者が大幅に増加している。
計画終了後の状況及び事業効果	大河ドラマ放送を契機として、周辺施設で観光客が増加していることも踏まえ、Wi-Fiスポットの設置についても経費負担を含めて、最適な手法を検討中である。
事業の今後について	Wi-Fiスポットの整備など、観光客の利便性向上を図ることで更なる誘客を図る。

●今後の対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、最終年度の数値が大きく下がったことで目標達成とはならなかったが、主要事業の順調な進捗に加え、大河ドラマ放送を契機とした官民一体となった多面的な取組により、令和元年度時点では基準値を大きく上回っている。

大河ドラマで全国から注目を集めている状況をリピーター獲得の好機ととらえ、工夫を凝らした事業と周辺活性化施策との連携を図っていくことで、さらに実績を伸ばしていきたい。

(3)「新規開業数」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P92～P94 参照

●調査結果と分析

現状数値：
平成 23～27 年
10 店舗

2倍

28	29	30	1	2
5	3	5	10	7

目標数値：
平成 28～令和 2 年
20 店舗

年	(単位) 店舗
H23 ～27	10 (基準年値)
H28	5
H28 ～29	8 (年間開業数 3)
H28 ～30	13 (年間開業数 5)
H28 ～R1	23 (年間開業数 10)
H28 ～R2	30 (年間開業数 7)
H28 ～R2	20 (目標値)

※調査方法：新規店舗の開業数調査

※調査月：令和 2 年 3 月実施

※調査主体：福知山市

※調査対象：中心市街地テナントミックス推進事業及び
創業支援事業による新規開業店舗

〈分析内容〉

新規開業に向けた各事業については、順調に進捗した。

後述する「中心市街地テナントミックス推進事業」では、遊休不動産と遊休不動産を利活用したい人とをマッチングする中心市街地ストックバンク制度と、ストックバンク制度利用によって新規開業される場合に補助する制度とを合わせることで目標値を大きく上回る成果を達成することができた。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 中心市街地テナントミックス推進事業(福知山市、福知山まちづくり(株)、民間)

事業実施期間	平成 23 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内における空き家を利用した飲食・物販等のショップ開業に対し、経済産業省の補助金活用の自己負担分の補助やタウンマネージャーの支援を実施。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	・事業目標値(テナントミックス事業としての新規開業) 5 店舗/(H28-R2) ・最新値 4 店舗/(H28-R2)
達成した(出来なかった)理由	福知山駅正面通り商店街における福知山フロント株式会社が主導的にエリアのデザインガイドラインを策定し、遊休不動産所有者と

	の交渉、改装、サブリースを行う形でテナントミックス事業を推進したことで、4店舗が開業している。一方、他のエリアでそうしたテナントミックスによる新規開業は進まなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	テナントミックスが進捗した福知山駅正面通り商店街では通行量が増加(駅正面通り商店街の通行量/682人<平成28年度>⇒894人<令和元年度>:対28年度比31%増加している。
事業の今後について	立地適正化計画による都市再生推進法人の設立など、エリアマネジメントの視点からのまちづくりを推進し、エリア再生の観点からのテナント集積を構想した適切なテナントミックスの増加を図る。

②. 中心市街地創業支援事業(福知山市、福知山商工会議所)

事業実施期間	平成27年度から令和2年度【実施中】
事業概要	中心市街地での起業・創業対象者に、起業塾や先進事例の視察などを開催し、開業支援を行う
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値(市や府の補助制度等を活用した新規開業件数) 15店舗/(H28-R2) ・最新値 26店舗/(H28-R2)
達成した(出来なかった)理由	遊休不動産と遊休不動産を利活用したい人とをマッチングする中心市街地ストックバンク制度と、ストックバンク制度利用によって新規開業される場合に補助する制度を実施する他、商工会議所での創業相談窓口の設置、起業セミナーの開催、また平成30年度には産業支援センターを市民交流プラザふくちやまの1階に開設するなど、起業されたい方に対して多面的な支援を行うことで目標値を大きく上回った。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地内で様々な新規開業が創出されることで、新型コロナウイルス感染症感染拡大する中においても、7店舗の新規開業が生まれるなど、中心市街地への民間投資が活性化している。
事業の今後について	今後も商工会議所及び産業支援センター等と連携し、新たな開業希望者の掘り起こしを図るとともに、遊休不動産所有者とのマッチングを図ることで新規開業を推進する。

●今後の対策

テナントミックス事業及び創業支援事業、並びに関連する各種事業とともに、新規開業件数は順調に進捗し、目標値を大きく上回り達成した。今後も関係機関と連携し多面的な支援を継続・拡充することで更に実績を伸ばしていく。